

## 会長緊急特別企画「消化管診療と COVID-19」

司会 阿部 展次（杏林大学医学部消化器・一般外科）  
猿田 雅之（東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）  
寺澤 哲志（大阪医科大学化学療法センター）

現在 COVID-19（新型コロナウイルス感染症）は世界的に大流行しており、世界中で様々な課題に直面している。消化管診療において、COVID-19 の直接的、間接的な影響を整理することは、日常診療を行う上で重要である。COVID-19 の初発症状のうち、2 割弱で下痢が報告されているが、そのメカニズムは不明である。COVID-19 のことを聞くだけで消化管の症状が出現する、安定していた機能的・器質的な消化管疾患が再燃するなど、疾患とのかかわりが指摘されている。また、消化管診療で用いられる免疫抑制剤や生物学的製剤などが COVID-19 に及ぼす影響も危惧される。消化管がんの手術後のケアや化学療法と COVID-19 の関係も知りたいところである。一方、感染予防や感染拡大予防の観点から、手術や内視鏡検査の施行方法もいろいろと工夫しなければならない。このように消化管診療と COVID-19 は深い関係があり、あらためて現時点での知見を整理する必要があると考え、今回、会長緊急特別企画を実施することとした。各御施設の取り組みや今まで得られたエビデンスを幅広く募集する。